

様式第6号(第18条関係)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和5年4月28日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地 宮崎市大塚町鎌ヶ迫2296番地3
名 称 大塚地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名 会長 松田 博 印
電 話 番 号 53 - 4047

令和5年1月13日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書又は収支決算(見込)書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 積立金管理状況報告書
- (ホ) 宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書
- (ヘ) 地域まちづくり推進委員会備品管理台帳の写し
- (ト) 地域協議会の意見書

(様式第5号)

大塚地域自治区
大塚地域まちづくり推進委員会

1 総括

20の事業を計画したが、新型コロナウイルス感染防止のため4事業が実施できなかった。その状況の中、感染予防対策を十分に事業を実施してきた。また、大塚児童センターでのSDGS工作や防災講座、大塚小PTAごみ減量など、初めて地域の団体と連携して取組めた行事もあった。さらに、企業と連携して草刈りが実施できたことも今年度のトピックスである。今後も引き続きまちづくりビジョンの検証を行い、大塚地域の課題解決に取り組んでいきたい。

(1) 収入の部

項目	予算	決算	差	備考
地域コミュニティ活動交付金	4,250,759	4,250,759	0	
繰越金	1,424,741	1,424,741	0	
災害対応積立基金取崩額	1,094,742	1,094,727	15	
積立金利子	0	7	7	銀行利息
補助金	0	0	0	
負担金	922,500	50,500	872,000	
その他	0	25	25	銀行利息
合計	7,692,742	6,820,759	871,983	

(2) 支出の部

分野	事業名	実施年数	予算	決算	差	備考
防	見守り活動事業	14年目	110,000	81,347	28,653	
防	防災訓練事業	14年目	530,000	254,826	275,174	
防	防災力の向上事業	11年目	100,000	32,519	67,481	
防	災害対応積立基金備蓄品購入事業	2年目	1,094,742	1,094,734	8	
防	防災充実事業	11年目	530,000	504,400	25,600	
福	生活支援事業	6年目	60,000	3,720	56,280	コロナ禍で行事中止
福	「やさしいまち大塚」プロジェクト事業	2年目	70,000	65,749	4,251	
福	男女共同参画社会づくり事業	14年目	40,000	13,622	26,378	
福	ふれあいサロン事業	13年目	100,000	29,612	70,388	
福	健康づくり事業	6年目	35,000	23,407	11,593	
環	水流川クリーンアップ事業	12年目	530,000	521,278	8,722	
環	ダンボールコンポスト事業	11年目	100,000	83,192	16,808	
環	ペットマナー向上事業	8年目	90,000	54,628	35,372	
伝	大塚音頭普及促進事業	10年目	63,000	2,329	60,671	
健	健康増進事業	5年目	52,000	37,716	14,284	
教	江南小学校地区体育祭共催事業	12年目	0	0	0	コロナ禍により事業中止
教	大塚町体育祭共催事業	12年目	752,000	55,792	696,208	コロナ禍で行事中止
教	昔の遊びとニュースポーツに挑戦事業	12年目	40,000	4,926	35,074	
他	祭り大塚共催事業	2年目	1,346,000	675,761	670,239	コロナ禍で行事中止
他	まちづくり充実事業	9年目	2,050,000	1,856,158	193,842	
小計			7,692,742	5,395,716	2,297,026	

繰越金		1,425,043	1,425,043	
合計	7,692,742	6,820,759	871,983	

3 実施報告

〔1〕防犯・防災に係る事業

事業名	見守り活動事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了 ：なし													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり・絆づくり) 地域住民のコミュニケーションを充実させ、絆を結ぶ。</p> <p>2. 安全・安心な大塚の街をつくります。(防災・福祉) 地域の防犯、交通事故防止につなげる。</p>														
目的(期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚地域の子ども達の見守り活動を通して地域の安全確保を図り、加えて交通マナーの向上を推進する。 ・あいさつ運動をとおして元気なまちづくりが出来る。 														
事業内容・手段	<p>(1) 小学校交通安全教室支援 江南小学校は新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校内行事として実施。 大塚小学校は5月26日に校内体育館にて実施。</p> <p>(2) 見守り活動 内 容 あいさつ運動を実施 実施時期 令和4年5月16日、5月17日、5月18日、10月17日、10月18日、10月19日 実施場所 各学校正門、見守り会員の各担当場所</p> <p>(3) 青色パトロールはやぶさ会支援等 内 容 日常の登下校時の見守り活動 パトロール実施者証配布 コロナ感染対策として人数制限、回数縮小 実施時期 1年間</p> <p>(4) 危険個所の足形マーク塗り替え作業 実施時期 令和4年4月 実施場所 上区 (中区、南区、江南小学校区は令和5年度に実施予定)</p>														
事業費	81,347円														
対象者	地域住民														
参加者数(内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1,014人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>490人</td> <td>198人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,504人</td> <td>258人</td> </tr> </tbody> </table> <p>一般参加者...交通指導員、スタッフ...見守り隊、青色パトロールはやぶさ会の総人数 あいさつ運動参加人数</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	1,014人	60人	スタッフ	490人	198人	合 計	1,504人	258人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	1,014人	60人													
スタッフ	490人	198人													
合 計	1,504人	258人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒が元気よく挨拶をしてくれるので朝から元気をもらえた。 ・青色回転灯を回しながらスピーカーで防犯や声かけ事案に対する呼びかけをした。特に公園などでは効果があるとの声が上がった。 ・のぼり旗の立ち位置が悪かったためカーブミラーが見えないと苦情があった。のぼり旗を立てる場所も気をつける必要がある。 ・雨天時の実施判断、連絡等が統一されていなかった。 ・運動期間を3日ではなく2週間ほどにするとより効果が上がるのではないか。 ・今回は学校職員、児童、生徒、まちづくり部会員、見守り会で取り組んだが家庭、地域全体で取り組んだらどうか。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	学校からの要請もあり、防犯・交通事故防止につながった。	広報	事業の周知	A	B	チラシを作成し学校、地域自治会にも配布し、掲示板にも掲載
	住民の参加	B	A	他団体にも声かけしていきたい。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	他の部会員への参加を増やし全体で取り組む	事業の必要性	住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	B	警察や団体との連携により安全面の情報の共有化を図った。			有・無		
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 青色パトロール時のスピーカーによる呼びかけは、治安面の効果が上がった。 コロナ禍の中、見守り活動が縮小化しており、声かけ事案などの発生が心配であるが車内の換気などに注意しながら巡回を実施した。地域安全の一役を担っている。 							
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年2月・事業計画）> 廃部となった地域学校連携部会の「あいさつ運動」を昨年度継承し、新たにのぼり旗を購入した。地域全域にのぼり旗が掲げられ、あいさつ溢れる大塚となるよう頑張っていたきたい。また、引き続き、学校や警察、青色防犯パトロール等の関係団体との連携を密にして、更なる地域の安全確保を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応> 地域学校連携部会の後を受けてあいさつ運動を5月と10月に実施した。見守り隊を初め各団体の協力を得て大いに盛り上がった。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）> 警察や地域団体との情報交換会や小学校が開催する交通安全教室への参加をとおり、学校や警察機関等と情報を共有しながら、引き続き、見守り活動組織、青色パトロールを支援し、地域に根ざした地域の安全確保に努めていただきたい。</p> <p><意見への対応> コロナ感染拡大防止対策の為、青パト車による活動は十分とはいえなかった。県の対応も変わったので、各団体のパトロールを復活したい。</p>				対応	済・未			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年2月・事業計画）> 引き続き、学校や警察、青色防犯パトロール等の関連団体との連携を密にして、更なる地域の安全確保を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> 警察や地域団体との情報交換会や小学校が開催する交通安全教室への参加をとおり、学校や警察機関等と情報を共有しながら、来年度も、見守り活動組織、青色防犯パトロールを支援し、地域に根ざした地域の安全確保に努めていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会から出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業名	防災訓練事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます（人づくり・絆づくり） 中学生や子ども会へ防災訓練参加の呼びかけする。</p> <p>2. 安全安心な大塚の街をつくります（防災・福祉） 災害時に緊急対応ができるように備える。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>地域住民の防災意識の高揚などを図るため、8自治会でそれぞれ目的に沿った訓練を実施し、災害時の緊急対応が果たせるように備える。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 防災訓練、防災倉庫の点検実施</p> <p>実施日 令和4年10月30日 防災倉庫点検（宝塚） 12月24日 防災倉庫点検（りんどうヶ丘・上区） 令和5年 2月12日 防災研修（中区） 2月19日 防災研修（南区） 2月26日（りんどうヶ丘）防災訓練（下区）防災倉庫点検 3月19日 防災倉庫点検（大淀台）</p> <p>会場 各自治会公民館、防災倉庫設置公園</p> <p>内容 どの自治会も例年の規模の防災訓練は開催せず、一般の参加は募らず、自治会役員、自主防災隊で規模を縮小し、防災講話や防災倉庫の資機材点検等を行った。</p> <p>(2) 情報伝達訓練</p> <p>実施日 令和4年9月4日</p> <p>内容 8自治会への避難指示の伝達訓練</p>														
事業費	254,826円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>448人</td> <td>135人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>448人</td> <td>135人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ	448人	135人	合計	448人	135人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ	448人	135人													
合計	448人	135人													
住民の声（アンケートの結果等）	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚地区の災害についての防災講話が聞けてよかった。 ・例年の防災訓練ができない中、防災倉庫の点検をすることで、処分するものと新たに申請して購入する物、期限が来ている物を把握でき、チェック表への記録もできてよかった。 ・コロナ禍で防災訓練やイベントができないので、発電機や資機材動くのか、備蓄品の期限は切れていないか、改めて点検する必要がある。 ・近年は防災倉庫の点検を毎年しているので、資機材の場所を把握できている。 ・来年度は、防災訓練ができるよう、早めに計画したい。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A		広報	事業の周知	B	A	
	住民の参加	B	B	自治会の役員、自主防の構成員のみで行った。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			住民の満足度			B
	各種団体との連携	B	A		事業継続の必要性		○有・無		
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等> 従来の防災訓練は今年もできなかったが、防災倉庫の点検と資機材の確認、試運転等はできてよかった。</p>							
地域協議会からの意見への対応		<p><地域協議会からの意見（令和2年4月・事業実績報告）>自治会が主催する防災訓練に、経費一部負担と関係機関との連絡調整を行うことで、円滑な訓練実施に取り組んでいる。しかし、参加者数の低迷や子どもたちや子育て世代の参加が少ない等の課題もあり、地域の防災を担う防災部会として、自治会とともに訓練内容の検討や課題の解決を図ってほしい。 <意見への対応>今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一般の参加（学校等含む）は募らなかった。</p>				対応	○未・済		
		<p><地域協議会からの意見（令和3年4月・事業計画）>防災部会と自治会が密に連携して取り組んでいただきたい。また、学校との連携も図り、子ども達の参加を増やしていただきたい。 <意見への対応>防災部会と自治会の連携は取れているが、学校との連携が難</p>				対応	○未・済		
		<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため防災訓練は開催できず、防災倉庫の点検を実施しましたが、来年度は、防災部会が更に地域の防災を担う組織として、自治会とともに訓練内容の検討と参加者の低迷、子どもたちや子育て世代の参加が少ない等の課題解決を図っていただきたい。 <意見への対応>新型コロナウイルス感染拡大防止のため防災訓練は開催できなかった。子どもや子育て世代への声かけもできなかった。</p>				対応	○未・済		
		<p><地域協議会からの意見（令和4年6月・事業計画）>防災部会と自治会が密に連携して取り組んでいただきたい。また、学校との連携も図り、子ども達の参加を増やしていただきたい。 <意見への対応>防災訓練はできなかったが、各自治会に、防災倉庫の点検と資機材チェックをしてもらった。</p>				対応	○未・済		
		<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため防災訓練は開催できず、防災倉庫の点検や防災研修を実施されましたが、来年度は、防災部会が更に地域の防災を担う組織として、自治会とともに訓練内容の検討と参加者数の低迷、子ども達や子育て世代の参加が少ない等の課題解決を図っていただきたい。</p>				対応	未・済		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	防災力の向上事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 2.安全安心な大塚の街をつくります（防災・福祉） 防災士を増やすことで安全安心なまちづくりを目指す。														
目的（期待される効果）	緊急災害時、行政組織の支援があるまでの間、地域のことを地域で守ることができるようにするために、地域の防災リーダーを育成する。														
事業内容・手段	(1)宮崎県防災の日オンラインセミナー（防災教室） 実施日 令和4年5月22日 内容 楽しく学ぼうお天気と防災・学んで備えよう防災クイズ 講師：気象予報士 酒井晋一郎氏 (2)宮崎市地域防災研修会 実施日 令和4年10月1日 内容 「大雨災害から身を守るための防災気象情報の読み解き方」 会場 宮崎市民文化ホール 講師：気象台台長 上出一美氏、小松もりした自治会長 伊藤照夫氏 (3)大塚児童センター防災教室 実施日 令和4年11月5日 内容 児童・保護者を対象とした身近な防災教室 会場 大塚児童センター (4)防災研修：みやざきシェイクアウト（6回目） 実施日 令和4年11月10日（防災部会と同日） 会場 大塚地域事務所 (5)宮崎市消防・防災フェア出席 実施日 令和4年12月3日 内容 水消火器、起震車体験 心肺蘇生・AED体験 会場 イオンモール宮崎 ヒナタテラス (6)宮崎市総合防災訓練 実施日 令和5年1月29日 内容 救急救助訓練、ライフライン復旧訓練、防災展示 会場 宮崎市大淀川市民緑地（大淀川河川敷）														
事業費	32,519円														
対象者	地域住民														
参加者数（内訳）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>6人</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>20人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>26人</td> <td>48人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	6人	46人	スタッフ	20人	2人	合計	26人	48人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	6人	46人													
スタッフ	20人	2人													
合計	26人	48人													
住民の声（アンケートの結果等）	<ul style="list-style-type: none"> ・視察研修は出来なかったが、それぞれが研修先を選定し、できるだけスキルアップのため、研修や講習、見学、勉強会に参加した。 ・人吉市へ視察研修を計画したが、今は災害復興を優先しているため、受け入れは難しいと、観光協会のプログラムを紹介された。内容もちょうろが受けない研修ではなかったので断念した。 ・研修や講習会の内容を「防災だより」のような形で回覧し報告したい。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	A		広報	事業の周知	B	A	
	住民の参加	C	B			事業の効果	課題解決への作用	B	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				住民の満足度	C	B
	各種団体との連携	A	A		事業継続の必要性				有・無

良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画していた研修視察はできなかったが、研修班のそれぞれが、研修に参加し部会員のスキルアップはできたと思う。
------------	--

地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和2年4月・事業計画）> 地域防災の向上には、リーダーの存在は重要であり、専門知識を有し、やる気のある防災リーダーの育成は、早急に取り組むべき課題である。今後とも、自主防災隊と連携を密にし、リーダーの育成に取り組んでもらいたい。</p> <p><意見への対応> 防災士やSVCの資格を有する地域住民は増えてはきているが事業や地域活動に参加していただける人材の発掘が課題である。</p>	対策	未・済
	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）> 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になった研修が多かったが、地域防災の向上には、リーダーの存在は重要であり、専門知識を有し、やる気のある防災リーダーの育成は、早急に取り組むべき課題です。今後とも、自主防災隊と連携を密にし、リーダーの育成に取り組んでもらいたい。</p> <p><意見への対応> 地域の防災リーダーの育成のため、部会員が積極的にリモート研修等に参加した。研修した内容を地域住民へ伝えるのが課題。</p>	対策	未・済
	<p><地域協議会からの意見（令和4年6月・事業計画）> 地域防災の向上には、リーダーの存在が重要であり、専門知識を有し、やる気のある防災リーダーの育成は、早急に取り組むべき課題である。今後とも、自主防災隊と連携を密にし、リーダーの育成に取り組んでもらいたい。</p> <p><意見への対応> まちづくり推進委員会から、大塚地域で防災士の推薦を4人へ出した。防災士の資格を取った方が、地域の防災リーダーとして活動してもらえよう、お願いをしていきたい。</p>	対策	未・済
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画通りの研修はできなかったが、地域防災の向上には、リーダーの存在は重要であり、専門知識を地域防災の向上には、リーダーの存在が重要であり、専門知識を有し、やる気のある防災リーダーの育成は、早急に取り組むべき課題です。来年度は、自主防災隊と連携を密にし、リーダーの育成に取り組んでもらいたい。</p> <p><意見への対応></p>	対策	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で作された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	災害対応積立基金備蓄品購入事業	実施年数	2年目												
事業期間	開始：令和3年度	終了：令和4年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり・絆づくり) 災害時の活動や避難所生活を円滑にするために資機材を整備する。</p> <p>2. 安全・安心な大塚の街をつくります。(防災・福祉) 災害に強い安心して暮らせる街をつくる。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>災害時に備え地域が必要とされる資機材並びに避難所運営に関する資機材を整備することにより、災害時の活動や避難所生活において安定した活動・生活の効果が見込まれる。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 各自治会で災害時に必要な資機材の点検</p> <p>(2) 資機材等の整備 実施日 1年間 内 容 コードリール(防水タイプ)30m【指定避難所、自主避難所】 工業用扇風機と専用カバー 【指定避難所、自主避難所】 電子メモパット(筆談用) 【指定避難所】 ベンリーテント、ベンリー間仕切り【公民館敷地内の防災倉庫】 土嚢袋、土嚢袋用脱水剤 【公民館敷地内の防災倉庫】 業務用消火器の消火器の買い替え 【まちづくり推進委員会倉庫】</p> <p>(3) 積立基金規程に定めた資機材の修繕、まちづくりが管理している消火器の処分</p> <p>(4) 消耗品の購入 消毒スプレー、ハンドソープ、除菌シート、備品用テプラテープ</p>														
事業費	1,094,734円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>24人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>24人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ	24人	27人	合 計	24人	27人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ	24人	27人													
合 計	24人	27人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ年計画で災害対応積立基金の取り崩しを実施し、地域に必要な防災用品を購入できた。 ・指定避難所と自主避難へ資機材の整備ができて良かった。 ・指定避難所で台風時に水で膨らむ土嚢を使ったが、使用后、脱水剤を使用し乾燥させる必要があり、処理が大変だった。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A		広報	事業の周知	B	B	
	住民の参加						事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	数年前から計画中し、2ヶ年計画で配置した。		住民の満足度			
	各種団体との連携	A	A		事業継続の必要性		有・ <input checked="" type="radio"/> 無		
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会からの意見	<地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）> 地域が必要とする災害用資機材や避難所生活に必要な資機材を整備し、円滑な災害時の活動や避難所運営が出来るように、基金を有効に活用してほしい。また、積立基金を取り崩した後、再度基金を新設するのか、「防災充実事業」との線引きはどうするのかを検討・整理し、災害に備えてほしい。<意見への対応>実際に避難所開設をした際に必要な物を優先的に配置した。				対応	未・ <input checked="" type="radio"/> 済			
	<地域協議会からの意見（令和4年8月・事業計画）> 地域が必要とする災害用資機材や避難所生活に必要な資機材を整備し、円滑な災害時の活動や避難所運営が出来るように、基金を有効に活用してほしい。また、積立基金を取り崩した後、再度基金を新設するのか、「防災充実事業」との線引きはどうするのかを検討・整理し、災害に備えてほしい。<意見への対応>災害対応積立基金は2ヶ年で終了するため、次年度からは防災充実事業で対応していく。				対応	未・ <input checked="" type="radio"/> 済			
	<地域協議会からの意見（令和4年8月・事業計画）> 地域が必要とする災害用資機材や避難所生活に必要な資機材を整備し、円滑な災害時の活動や避難所運営が出来るように、基金を有効に活用してほしい。また、積立基金を取り崩した後、再度基金を新設するのか、「防災充実事業」との線引きはどうするのかを検討・整理し、災害に備えてほしい。<意見への対応> 災害対応積立基金は2ヶ年で終了するため、次年度からは防災充実事業で対応していく。				対応	未・ <input checked="" type="radio"/> 済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	防災充実事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 2.安全安心な大塚の街をつくります。(防災・福祉) 避難所に備品等を設置し、より安全安心な街をつくる。														
目的 (期待される効果)	災害発生時における地域住民の自助・共助がスムーズにおこなえられるように、地域で必要な防災に関する防災機器等を把握し、本年度は避難所運営に必要な資機材の整備を行う。														
事業内容・手段	(1)避難者運営に関わる資機材の整備 実施日 1年間 内容 大塚地域内の指定避難所並びに一時避難所(自主避難所)となる自治公民館や集会所に資機材を整備した。 ○ ヤマハインバーター発電機、専用カバー ○ 備蓄用ガソリン缶、ガソリン携行缶 ○ 発電機用エンジンオイルと容器														
事業費	504,400円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>20人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ	20人	27人	合計	20人	27人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ	20人	27人													
合計	20人	27人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は先行して、指定避難所で使用する発電器をできて良かった。次年度は自主避難所や防災訓練などのイベントで使用する発電機を購入していく計画でいる。 ・宮崎市から配備されている発電器が10年を迎え、故障しているものもあり、修理や買い替えを検討していく必要がある。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A		広報	事業の周知	B	A	
	住民の参加	B	A				事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A		事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年前から計画していた発電機の購入を、先行して5台購入できた。次年度は各自治会への配置を計画中であり、発電機の始動方法や点検をする。 							
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）></p> <p>災害時に住民の自助・共助が円滑に行えるように、引き続き、地域で必要な防災機器・用品を把握し、整備していただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>今年度は地域で必要な防災機器・用品を購入できたが、来年度は自治会からの要望に応じて、発電機を引き続き購入していく。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和4年10月・事業計画）></p> <p>災害時の避難所生活を円滑に送るためには、防災機器・用品の整備は非常に重要であるので、地域のニーズや避難者の声を十分に把握し、計画的な整備を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>大塚地域内の指定避難所並びに一時避難所（自主避難所）となる自治公民館や集会所に、要望のあった発電機を整備した。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>災害時に住民の自助・共助が円滑に行えるように、来年度も、地域で必要な防災機器・用品を把握し、整備していただきたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を

記載する必要はありません。

(2) 地域福祉に係る事業

事業名	生活支援事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始：平成29年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます(人づくり・絆づくり) 地域の人々とふれあいと交流を深めることが絆づくり人材育成を進めていくことができる。</p> <p>2. 安心安全な大塚の街をつくります(防災・福祉) 多様な困りごとの解決を図ることが、安心安全な大塚の街につながる。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>一人ひとりが尊重され誰もが安心して暮らすことのできる地域であるために、独居同居に関わりなく社会のつながりを求めて人との交流を続けられる、社会的ネットワークを構築し健康寿命を延ばすことを目的とする。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) みんなの居場所〇〇の会(〇〇に各会場の地区名)を計画した。 ・上区、南区、宝塚、江南の4地区は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ・中区で1月26日に実施予定で準備したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。</p>														
事業費	3,720円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和5年度	令和4年度	一般参加者		18人	スタッフ		18人	合計		36人
年度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者		18人													
スタッフ		18人													
合計		36人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・開催できなかったため、意見を聞くことが出来なかった。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握				広報	事業の周知			
	住民の参加						事業の効果	課題解決への作用	
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性					住民の満足度			
	各種団体との連携				事業継続の必要性			有・無	
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催できなかった。 事業内容が発足当時の目的から外れているため、次年度はふれあいサロン事業と統合し、コロナ後の住民の居場所が確保できるような事業を起案していきたい。 							
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年2月・事業計画）></p> <p>昨年度実施した「みんなの居場所 中区の会」が好評で、所期の目的は達成した。「中区の会」の問題点、改善点を検証し、本年度開催予定地区に活かしていただき、更に一人でも多くの引きこもりがちな住民の方々の居場所を作っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催できなかった。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度実施した「みんなの居場所 中区の会」が好評で、所期の目的は達成しました。「中区の会」の問題点、改善点を検証し、来年度開催予定地区に活かしていただきたい。更に一人でも多くの引きこもりがちな住民の方々に居場所を作っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催できなかった。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業中止となりました。ただ、当初5箇所での居場所づくりを計画されていましたが、マンパワー不足等の理由で、実施しても中区1箇所のみという状況でしたので、来年度は、無理のない事業計画で居場所づくりを実施し、引きこもりがちな住民の方々の居場所を作っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催できなかった。</p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会から出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	「やさしいまち大塚」プロジェクト事業	実施年数	2年目												
事業期間	開始：令和3年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます（人づくり・絆づくり） 認知症に理解ある人づくりを行ないながら、地域の絆を深めます。</p> <p>2. 安心・安全な街をつくります（防災・福祉） 子どもと一緒に、認知症の人を見守るやさしいまちづくりを目指します。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>高齢化が進む中、住み慣れた街でいつまでもいきいきと暮らしていく為に、たとえ認知症になってもステッカーを目にすることでご本人や家族が「地域でやさしく見守られている」という安心感を得られる。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) ステッカー追加作成と配布 作成：100枚 配布：大塚地域内の金融機関や事業所、医療機関等 福祉部会員等を通じて、個人宅へも依頼</p> <p>(2) 周知活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進委員会広報紙にステッカー完成の記事掲載 ・チラシ7,200枚を住民へ周知 ・大塚地域の掲示板10ヶ所にチラシ掲示 ・大塚小学校と江南小学校で開催された認知症サポーター養成講座内でステッカーを広報 														
事業費	65,749円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>270人</td> <td>675人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>297人</td> <td>692人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	270人	675人	スタッフ	17人	17人	合 計	297人	692人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	270人	675人													
スタッフ	17人	17人													
合 計	297人	692人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内で、もっとステッカーを見ることができるよう、たくさんの場所に掲示してあると良いと思う。 ・我が家にも掲示したい。 ・認知症は他人事ではないとわかった。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	今後は、ステッカーを掲示したことの反響等を調査し、ニーズの把握に努めたい。	広報	事業の周知	B	B	地域内の事業所や個人宅などへ直接掲示を依頼することで、周知と啓発につながった。	
	住民の参加	B	A	小学校での認知症サポーター養成講座が継続できた。			事業の効果	課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	B	まちづくり推進委員会が取組むことで、地域内の周知がよりきめ細やかに行うことができた。	事業の必要性	住民の満足度		B	B	概ね満足していただいているが、地域全体で満足していただく為に、さらに活動を続けていきたい。
	各種団体との連携	A	A	各種団体の役員で構成された、第2層協議体で協議することで連携を強化できた。		事業継続の必要性		有・無		
良かった点・改善点等		<p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ステッカー掲示の依頼をきっかけに、地域包括ケアシステムの啓発も行えた。 江南小学校、大塚小学校が認知症サポーター養成講座を継続的に実施 <p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ステッカーが色褪せしやすいとの声をもとに業者と検討し、今年度は劣化しにくいインクで作成した。 								
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業計画）></p> <p>ステッカーを表示していただく事業所、個人宅が少しでも増えるように、引き続き、事業に対する住民への理解を深め、ステッカーの周知徹底を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>各種団体の事業等に参加し、ステッカーの説明、周知を行った。</p>				対応	未・済				
	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）></p> <p>引き続き、事業の目的、特にステッカー作成の趣旨を丁寧に住民に説明し、また、チラシ等により住民の理解が得られるよう事業の周知徹底を図ってほしい。</p> <p><意見への対応></p> <p>事業所等へ直接出向き事業の説明を実施。本事業の理解と掲示のご協力をいただいた。</p>				対応	未・済				
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度も引き続き、事業の目的、特にステッカー作成の趣旨を丁寧に住民に説明し、また、チラシ等により住民の理解が得られるよう事業の周知徹底を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済				

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	男女共同参画社会づくり事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	<p>1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり、絆づくり) 男女共同参画社会づくりのための人材育成を進め、女性の力を活用する。</p> <p>2. 安全安心な大塚の街をつくります。 女性の力をもっと活用し、女性の視点で安全安心な大塚の街をつくります。</p>														
目的 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚地域で男女共同参画社会づくりの啓発を進める。 ・性別や年齢にとらわれずお互いを認め合い、あらゆる分野に参画でき、自分らしく生活でき、人に優しく思いやりに満ちた社会を目指す。 														
事業内容・手段	<p>(1)「地域における防災と備えの現状」講座 ～男女共同参画の視点で私たちにできること～ 実施時期 令和4年11月12日 会場 大塚中区自治公民館 内容 大塚地区の一般住民向けに「震災とジェンダー問題」を地域で考えるきっかけとして、避難所で苦難する男女格差の事例を講話。 講師 黒木淳子氏(宮崎市地域まちづくりアドバイザー派遣事業) (Mamoruwa 代表)</p>														
事業費	13,622円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>19人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>34人</td> <td>23人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	19人	8人	スタッフ	15人	15人	合計	34人	23人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	19人	8人													
スタッフ	15人	15人													
合計	34人	23人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に参加。ハザードマップの確認、災害時を想定した通学路を確認するきっかけになった。 ・性暴力、LGBTQ、生理のことなどの話を防災と絡めて聞いたことが良かった。 ・大きな震災後に各地の避難所で性差別や性被害が起こっていた事実は驚いた。報道ではそういった話をあまり聞かなかった。憤りとともに家族にもそういった危険が及ばないよう注意、配慮しなければならないと感じた。 ・今後、家庭内で日常的に防災の事、身を守る事について話していきたいと思った。 ・紙パンツや尿取りパットも備えておくと、非常時の排泄で簡易トイレに活用できるなど、知らない事ばかりだった。 ・避難場所、近所の溜め池の決壊など、危機意識が増えた。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	B		広報	事業の周知	A	B	小学校に配布したチラシにより、若い世代の方が参加された。
	住民の参加	A	B	高齢夫婦から親子連れまで、幅広い年代の参加だった。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	ジェンダー問題を取り扱った講座は、今後も実施していきたい。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A				事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等> 参加された方が所属する自治会でも今回の防災備品について話題にしたいとの感想を聞くことができた。講師としては社会的弱者や性差別の実態を直接伝えることで、問題意識を持つ方が少しでも増え、差別のない住みよい地域が作れると考えている。その考えが広まるきっかけになる講座になった。</p>								
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年6月・事業計画）> 昨年度は市の地域まちづくりアドバイザー派遣事業を活用して、防災講座を開催し、女性の視点で避難所運営や防災について話していただいた。女性ならではの具体的な話で、気づきが沢山あったので、本年度も男女共同参画の視点で気づきの多い講座を開催していただきたい。 <意見への対応> 女性目線の講座が開催できた。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> 本年度も昨年度に続き、市の地域まちづくりアドバイザー派遣事業を活用して、防災士の黒木淳子氏を講師に招き、防災講座を開催されました。女性の視点で避難所運営や防災について話していただき、女性ならではの具体的な話で、今回も沢山の気づきがありました。来年度も、引き続き、男女共同参画の意識高揚を図ってほしい。 <意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で作られた意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	ふれあいサロン事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成22年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます（人づくり・絆づくり）</p> <p>地域での支え合いや異世代交流を深め、顔の見える関係づくりに努めることで絆づくりができる。</p> <p>大塚の伝統文化の継承を進め、安心して生き生きと暮らせる住み良いまちづくりに取り組む。</p>														
目的（期待される効果）	<p>子どもから高齢者まで誰でも立ち寄れる居場所づくりを行い（三世代交流）地域住民同士の交流を増やす。そして、安心して住んでいたいと思えるまち、笑顔いっぱいの町を目指す。</p>														
事業内容・手段	<p>（1）南区ふれあいサロン</p> <p>実施日 令和5年2月26日</p> <p>内容 餅つき大会、ゲーム</p> <p>会場 南区ちびっこ広場</p> <p>上区、りんどうヶ丘、宝塚、中区：新型コロナウイルス感染防止のため中止</p>														
事業費	29,612円														
対象者	地域住民														
参加者数（内訳）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>150人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>23人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>173人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	150人		スタッフ	23人	5人	合計	173人	5人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	150人														
スタッフ	23人	5人													
合計	173人	5人													
住民の声（アンケートの結果等）	<p>（南区での感想等）</p> <ul style="list-style-type: none"> もち米30kg分を15回分の臼に分けて青年部や児童でもちつきをした。大人から子どもまでとても盛り上がった。 ミニゲームを設置したことで、参加者を飽きさせない工夫、配慮は素晴らしい。 もちを会場内で食べない事、もちを保管する場所には立ち入らない事などを何度も伝え、衛生面に配慮されていることが伝わった。 参加している児童の笑い声などを久しぶりに聞いた。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	B		広報	事業の周知	B		南区自治会が班回覧にて広報を実施
	住民の参加	A		混雑を避け実施	事業の効果	課題解決への作用	B	A	
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B			住民の満足度	B	A	
	各種団体との連携	A	B	自治会との連携	事業継続の必要性				有・ 無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等> 南区ではコロナ禍のためイベント開催が延期になり、今回は久しぶりということで、本イベントを楽しみにされていたと聞いた。 地域内で同じ名称の事業があり地域住民が判別・参加しにくいこと、生活支援事業に類似した内容であるため、次年度は生活支援事業と統合し、コロナ後に地域住民が交流できる場を提供していきたい。</p>							
地域協議会からの意見		<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）> 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行事は中止となりましたが、引き続き、子どもから高齢者まで誰でも立ち寄れる居場所を作っていただき、3世代交流や地域住民同士の親睦を深め、地域の方々の豊富な知識や経験・技能を活用し、高齢者の方々の生きがいづくりも図ってほしい。 <意見への対応> コロナ禍により事業中止が相次いだが、地域住民はイベントを欲していることが分かった。より多くの高齢者に参加を促し、三世代交流が実現できるようなイベントづくりをしていきたい。</p>						対応	未 ・済
		<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため計画とおりには実施できませんでしたが、来年度も引き続き、子どもから高齢者まで誰でも立ち寄れる居場所を作っていただき、3世代交流や地域住民同士の親睦を深め、地域の方々の豊富な知識や経験・技能を活用し、高齢者の方々の生きがいづくりも図ってほしい。 <意見への対応></p>						対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	健康づくり事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始：平成29年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり・絆づくり) 高齢化が進むなか、介護予防につながり参加者同士が交流することで絆づくりになる。														
目的 (期待される効果)	高齢になって起こる病気の原因である生活習慣病について学び、介護予防につながる健康体操を行い、参加者間の親睦、交流を図る。														
事業内容・手段	(1)「そろそろボチボチ介護のいろは」介護基礎講座 実施時期 令和4年12月 3日(大塚中区自治公民館) 12月10日(宝塚公民館) 内 容 介護保険の基礎知識、施設の種類や実態、地域包括支援センターの役割、ぐるみん大塚の紹介、体操、やさしいまち大塚ステッカーの紹介など 講 師 大塚地区地域包括支援センター 田中由賀氏(管理者) 日高美早氏(社会福祉士)														
事業費	23,407円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>39人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>23人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>62人</td> <td>58人</td> </tr> </tbody> </table> 事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	39人	40人	スタッフ	23人	18人	合 計	62人	58人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	39人	40人													
スタッフ	23人	18人													
合 計	62人	58人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「まだ先の話」と思って聞いていましたが、今後にとっても役立つ情報を得られたので、家族で共有し備えておこうと思った。 ・知っているようで知らなかった介護保険の話を詳しく聞くことができ、大塚地域の施設の種類や実態も理解できた。 ・年齢を重ねるごとに不安は増しますが、地域包括支援センターの存在はとても心強く感じた。「困った時は包括へ」と覚えました。 ・配布資料で施設の一覧表をもらったので、今後の参考にしたい。 ・途中、難しい話が続いたところに体操やミニゲームが入ったのでリラックスできた。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A		広報	事業の周知	A	A	クチコミで広がった。地域の民生委員も広報活動に協力いただいた。
	住民の参加	A	A				事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A		事業の必要性	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	地域包括支援センターと細かな打合せができ、昨年度よりも参加者に寄り添った講座内容になった。					
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 講師が準備した配布資料がわかりやすかった。プロジェクターを使用し、参加者からは大きく表示されるので見やすいと好評。 2地区（中区・宝塚）に分けたことで、足腰が弱い方や高齢者も近所の公民館で参加しやすい。 介護保険の申請を知らない方が多く、今後もこのような講座の必要性を感じた。 								
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年8月・事業計画）></p> <p>出来る限り健康で自立した生活を送るために、また、状態が悪くなった時に介護サービスを受けるために、地域包括支援センターは欠かせない存在なので、さらに連携を密にし、支援センターを地域住民にとってもっと身近な存在にしていきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>今回の講座で包括支援センターの場所や役割、存在意義が高まった。本講座以外でも連携を密にしていきたい。</p>							対応	未・済
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度は、地域包括支援センターの田中氏を講師に迎え、「介護保険サービスに関する基礎講座」やストレッチ体操、ミニゲームが行われました。包括支援センターの役割や施設の情報、どのような介護サービスが利用できるかなど、大変役に立つ話が聞けたと大好評でした。来年度も引き続き、包括支援センターと連携を密にし、支援センターを地域住民にもっと身近な存在にしていきたい。</p> <p><意見への対応></p>							対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(3) 環境に係る事業

事業名	水流川クリーンアップ事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり、絆づくり) 行事への参加を地域住民に声かけし住民同士の交流を図る。 2. 安全安心な大塚の街をつくります(防災・福祉) 川に親しみ様々な体験を通して水の危険性を体感したり、災害時に使う一人用トイレを体験したりして、防災意識を高めることができる。														
目的 (期待される効果)	・水流川に親しむ活動やごみ拾い活動を通して住民との交流を図る。 ・水流川の環境を学んだり、水質浄化液「えひめA」の学習をしたりすることにより、地域の環境についての意識向上を図ることができる。														
事業内容・手段	(1) 水流川周辺の清掃、環境調査 実施時期 令和4年5月8日、7月10日、9月4日、11月13日 令和5年1月12日、3月12日 内 容 川の中や周辺の道路の清掃、彼岸花球根植え ごみの重さや種類を記録、水質検査、水生生物や環境等の調査 (2) 江南小学校の環境学習サポート 実施時期 令和4年9月28日、12月16日 内 容 [9月] 水生生物や植物の観察、水質検査指導 プラスチックごみに関する手作りの紙芝居を披露 [12月] 昔の水流川の話、再生工事の話、水質検査指導 会 場 水流川、江南小学校 (3) 水流川周辺の草刈り 実施時期 令和4年5月15日、7月10日、7月18日、9月4日 10月22日、10月23日 (4) 水辺安全講習会参加 実施時期 令和4年7月13日 会 場 高岡交流プラザ、大淀川 (5) 魚のつかみ取り in 水流川 実施時期 令和4年8月20日 会 場 水流川 (6) 大塚児童センターSDGs 工作講座 内 容 大塚や水流川の話、COD 検査、竹の水鉄砲作り 実施時期 令和4年8月19日 会 場 大塚児童センター (7) 「身近な水辺のモニター調査報告会」(県土木事務所主催) 実施時期 令和5年2月10日 内 容 水流川の環境調査結果及び活動報告 (8) 九州「川」のワークショップ in 筑後川 実施時期 令和4年11月26日～27日 内 容 ステージ発表、日田市長の講演、アピールタイム 会 場 大分県日田市大山文化センター														
事業費	521,278円														
対象者	大塚町地域住民 江南小学校5年生														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>313</td> <td>244人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>344</td> <td>151人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>657</td> <td>395人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	313	244人	スタッフ	344	151人	合計	657	395人		
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	313	244人													
スタッフ	344	151人													
合計	657	395人													
	事業内容に応じて男女別や年代別データ														
住民の声(アンケートの結果等)	【魚のつかみ取り】 ・こんなに楽しめるとは想像以上でした。地域の方々に感謝です。近所の川がみんなに守られていることを改めて考えさせられました。 ・開会式からつかみ取りまで進行もスムーズで、人数制限やグループ分け等のコロナ対策もバッチリでした。来年も是非参加したい。 ・子ども達が夢中になって魚を追いかける姿を見ることができて良かったです。ライフジャケットまで準備してくださりありがとうございました。 【SDGs 工作講座】 ・少人数だったので子ども達がすごく楽しんでくれ、それを身近で見られて嬉しかった。														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	行事を久しぶりに実施したら大変よかったです。地域のニーズを実感した。	広報	事業の周知	A	A	
	住民の参加	A	A	コロナ禍でもイベントが実施できるように十分に話し合い、できる限りの対策を行って参加者を募った。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	再生工事後の水流川を維持し地域住民に川の良さを感じてもらい、環境への意識を持たせるにはまちづくりの取組が必要である。	事業の必要性	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	大塚児童センター、国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎土木事務所、江南小学校、大淀川流域ネットワークと連携。					
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は初めて大塚児童センターと連携してSDGs 工作講座を受け持った。日頃の実践の中から講座内容を考えて実施することができて良かった。 ・3年ぶりのイベントは大変好評だった。できる限りのコロナ対策や熱中症対策を講じて実施できた。パネル展示をしたので環境部会の活動状況や川の環境を少しは知ってもらうことができたと思う。 ・部会員の負担を減らすのが大きな課題である。 							
地域協議会からの意見		<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実施報告）></p> <p>引き続き、住民の川への思いや環境に対する意識の向上を図っていただきたい。また、「江南小学校の環境学習サポート」は、先生も熱心に取り組んでおられ、学校と地域が連携した素晴らしい内容になっているので、モデル事業として大塚地域外にも積極的に広報し、多くの人たちに知っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>宮崎土木事務所から委嘱されている、「身近な水辺のモニター」の報告会で、県内団体や県土木事務所の方々に向けて江南小環境学習を評価していただいた。部会員の活動への士気が上がった。</p>					対応	未・済	
		<p><地域協議会からの意見（令和5年2月・事業計画）></p> <p>引き続き、住民の川への思いや環境に対する意識の向上を図っていただきたい。また、「江南小学校の環境学習サポート」は、先生も熱心に取り組んでおられ、学校と地域が連携した素晴らしい内容になっているので、モデル事業として大塚地域外にも積極的に広報し、多くの人たちに知っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	
		<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実施報告）></p> <p>来年度も引き続き、住民の川への思いや環境に対する意識の向上を図っていただきたい。特に「江南小学校の環境学習サポート」は、先生も熱心に取り組んでおられ、学校と地域が連携した素晴らしい内容になっているので、モデル事業として大塚地域外にも積極的に広報し、多くの人たちに知っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	ダンボールコンポスト事業	実施年数	11年目(H26.H30 休止)												
事業期間	開始：平成22年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます(人づくり・絆づくり) ごみ減量やたい肥の使い方を学んだり話し合ったりする中で、住民同士の交流を図り、宮崎市のごみ減量への意識向上を図る。														
目的(期待される効果)	家庭で出るごみをダンボールコンポストで処理することにより生ごみの減量化を図り、環境について考える機会を提供する。														
事業内容・手段	(1)ダンボールコンポストの使い方と環境を学んだ。 実施時期 令和4年6月25日 (2)フォロー講座 ダンボールコンポストが初めての方を対象にフォロー講座を開いた。 実施時期 令和4年7月23日 (3)コンポストのでき具合を学んだ。水質浄化液「えひめ AI-2」の作り方を講習した。 実施時期 令和4年9月25日 (4)大塚小学校 PTA ゴミ減量講座 ダンボールコンポストの使い方と環境を学んだ。 実施時期 令和4年11月26日 コンポストのでき具合を学んだ。水質浄化液「えひめ AI-2」の作り方を講習した。 実施時期 令和5年2月25日 会 場 大塚地域事務所 講 師 NPO 宮崎ダンボールコンポスト県央支部 高橋保雄氏														
事業費	83,192円														
対象者	大塚地域住民														
参加者数(内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>52人 (小学生4)</td> <td>28人 (小学生6,中学生1)</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>29人</td> <td>14人 密を避けたため</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>81人</td> <td>42人</td> </tr> </tbody> </table> 事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	52人 (小学生4)	28人 (小学生6,中学生1)	スタッフ	29人	14人 密を避けたため	合 計	81人	42人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	52人 (小学生4)	28人 (小学生6,中学生1)													
スタッフ	29人	14人 密を避けたため													
合 計	81人	42人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・約10年続いています。虫の発生などいろいろありましたが、可燃ごみが減り肥料になるなど良いことがあります。講習会では新しいことが聞けてとても良かったです。 ・講座の継続を希望します。補助金で材料が安く手に入ると続けられます。 ・孫と一緒にやってみたい。若い人の力、若い時からの興味が大事だと思います。 ・公民館講座や学校でもやってほしい。 ・大塚小の家庭学級講座として次年度も継続してもらえればと思っています。子ども達にも環境問題を小さい頃から考えさせたいです。 ・学校の取組として、花壇での肥料づくりなどやってみるのを検討したい。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	継続してほしい、公民館講座でもやってほしい、もっと広報して参加者を増やしてほしいという意見がある。	広報	事業の周知	B	B	大塚小 PTA 家庭教育学級でごみ減量講座を実施できたこともあり少しずつ周知がされてきている。
	住民の参加	A	A	継続している方からも知人の参加を勧めてもらった。参加者が増えている。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	講座を実施することで安価で材料が手に入るため減量を継続できている。	事業の効果	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	NPO宮崎ダンボールコンポストネットワーク県央支部と連携した。市の環境業務課とも連携できた。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールコンポストをより具体的に実演なども加えて説明してもらえるので参加者がイメージをつかむことができとても良かった。 ・継続中の方も講師の話などに毎回得ることが多いようで積極的に参加されている。 ・講座の中で経験者に話をしてもらった。内容が年々充実してきているのを感じる。 ・大塚小PTAでごみ減量講座を実施できた。これをきっかけにさらに実践が広がるといいと思う。 ・これまでの実践が、市のモニター講座につながることでとても良かった。 ・来年度は大塚公民館講座で連携して実施していきたい。 							
地域協議会からの意見		<p><地域協議会からの意見(令和4年4月・事業実績報告)>ダンボールコンポストは地域にかなり普及し、生ごみの減量化が図られているので、引き続き、環境についての意識が向上するよう推進していただきたい。</p> <p><意見への対応>本年度は、初めて大塚小PTA講座としてごみ減量講座を開いた。親子で参加して環境を考えるきっかけ作りができた。令和5年度は大塚公民館と連携した講座を開催することになった。また、もっとコンポストの良さを周知して下さるよう宮崎市にも働きかけた結果、令和5年度にモニター講座事業を開いてもらえることになった。大きな一歩だと考える。</p>					対応	未・済	
		<p><地域協議会からの意見(令和5年2月・事業計画)>ダンボールコンポストは地域にかなり普及し、生ごみの減量化が図られているので、引き続き、環境についての意識が更に向上するよう推進していただきたい。</p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	
		<p><地域協議会からの意見(令和5年4月・事業実績報告)>ダンボールコンポストは地域にかなり普及し、確実に、生ごみの減量化が図られていますので、来年度も引き続き、環境についての意識が更に向上するよう推進していただきたい。</p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会から出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業名	ペットマナー向上事業	実施年数	8年目
事業期間	開始：平成27年度	終了：なし	
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます（人づくり・絆づくり） ペットマナーの学習をし、飼い主同士の交流をすることが絆づくりにつながり、住み良いまちづくりにつながっていく。 2. 安全安心な大塚の街をつくります（防災・福祉） 飼主と地域とのトラブルを未然に防ぎ、飼主の防災意識を高め、万が一の際に周囲の理解を得られるようにしておく。		
目的 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・人社会と犬社会の安全な橋渡しとなるような愛犬家の集いとする。 ・飼育者間の相互理解を図り、命への責任意識を高める。 ・飼い主のペットマナーの啓発及び広報等をする。 ・飼犬の社会化を促し、安心して安全な飼犬の育成に助力する。 		
事業内容・手段	(1) 飼主と飼犬の交流会(ドッグラン) 実施日 令和4年 4月3日、5月1日、6月5日、8月7日、10月2日、11月27日 12月4日 令和5年 2月5日、3月5日 会場 鎌ヶ迫池ゲートボール場 (2) ペットマナーの広報 実施時期 令和4年4月～令和5年3月 内容 マナーポスターを作成し、まちづくり掲示板や地域に掲示した。 Facebook でマナー情報を発信した。 (3) しつけ教室 実施時期 令和4年11月27日 内容 災害時のペット避難のためのしつけと準備、個別相談 講師 野崎 佳織氏 JAHA1級動物看護師、災害支援動物危機管理士		
事業費	54,628円		
対象者	大塚地域住民及び隣接地域住民		
参加者数 (内訳)	年度	令和4年度	令和3年度
	一般参加者	74人(犬60匹) (大人63人、小人11人)	92人(犬73匹) (大人73人、小人19人)
	スタッフ	20人	20人
	合計	94人	112人
	雨天中止2回。1回はしつけ教室のためドッグランなし		
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ犬好きを通して犬のことを共有できる場があり良かったです。 ・大塚地区での犬のつながりができて毎回楽しみにしています。 ・共通の話題や相談、悩みを共有出来る機会が得られるのが嬉しい。 ・他所では小型犬ばかりで気を使うので、中/大型犬を遊ばせる機会が得られる。 ・もっと「愛護センター」から、飼犬や飼猫を得る人が増えたら良い。 ・年1回は講座をしてもらえると嬉しいです。 ・災害への備えが勉強になりました。 ・ドッグランの回数が、もっと増えると嬉しいです。 		

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	今回も一部に開催数を増やして欲しいとの依頼もあるが、開催を維持するので十分だと考えている。	広報	事業の周知	A	B	主催者を明確にするために会場前に立て看板を立ててPRした。マチコミメールに登録してもらい定期的に連絡ができた。
	住民の参加	A	A	犬猫に興味のある子供達が頻繁にドッグランを眺めている。声をかけても遠慮して参加しない。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域内で気軽に参加できるドッグランはニーズが多い。環境面でも対策を検討していきたい。	事業の必要性	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	「講演会」と「しつけ教室」を計画したが、コロナ禍の影響で実施しても参加者が少なかった。			有・無		
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等> これまでニーズの多かった飼い方相談会を計画したが、飼い犬同伴は不可としたことやコロナ禍で参加を見送ったことが理由のようで、1回目に計画した相談会は実施できなかった。2回目も参加が少なかったため、来年度は実施内容を検討したい。</p>							
地域協議会からの意見		<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）> 引き続き、ペット飼育者のマナー向上と地域住民同士の絆づくりを図っていただきたい。 <意見への対応> 毎回の参加者の入れ替わりがあるが、参加者同士の声かけは効果があるので、引き続き今後も協力をお願いしたいと考えている。ドッグラン参加者の意識は高いので、彼らや地域の方々にも何かマナーに関して「目立つ印」を散歩中に提示してもらい、興味を引いてもらおうと考えている。</p>						対応	未・済
		<p><地域協議会からの意見（令和5年2月・事業計画）> 引き続き、ペット飼育者のマナー向上と地域住民同士の絆づくりを図っていただきたい。 <意見への対応></p>						対応	未・済
		<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> 引き続き、ペット飼育者のマナー向上と地域住民同士の絆づくりを図っていただきたい。 <意見への対応></p>						対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(4) 伝統文化に係る事業

事業名	大塚音頭普及促進事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始：平成25年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます(人づくり・絆づくり)</p> <p>地域住民に踊りを指導したり披露したりすることで大塚音頭を普及し、みんなで踊ることが住民同士の絆づくりにつながる。また若い世代の人づくりにもつながっていく。</p>														
目的 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚音頭を大塚地域の文化財として永年にわたり歌い継ぎ、踊り継ぐことにより大塚地域のさらなる活性化を図る。 ・子ども達にふるさとを思い出させる曲となるように、大塚のシンボル曲とし、住民に普及促進する。 														
事業内容・手段	<p>(1) 大塚音頭保存会総会</p> <p>実施時期 令和4年5月20日</p> <p>会場 大塚地域事務所</p> <p>内容 活動内容、規約の確認等</p> <p>その他、参加を予定していた地域の行事イベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり活動できなかった。</p>														
事業費	2,329円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>21人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21人</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	-	-	スタッフ	21人	-	合計	21人	-
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	-	-													
スタッフ	21人	-													
合計	21人	-													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	-		広報	事業の周知	A	B	
	住民の参加	C	-	コロナ禍により住民参加の機会がなかった。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組	地域まちづくり推進委員会の取組としての	A	-		事業の継続の必要性	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	-						
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーション部会に入ってもらい話し合いを持てたことで、準備と取り組みについての確認ができた。 ・広報活動が不足した。 							
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年2月・事業計画）></p> <p>地域行事や学校行事へ大塚音頭を組み入れていただくよう積極的に広報して、指導の機会を増やし、大塚音頭の普及を図ってほしい。また、スポレク部会と大塚音頭保存会の密なる連携を図りながら、事業を展開してほしい。</p> <p><意見への対応></p> <p>各地区の夏祭りへの参加によって、普及を図るとともに各地区への広報活動に繋げる。大塚小学校、江南小学校の運動会やイベントへの参加を積極的に行い、広報活動を実施したい。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年2月・事業計画）></p> <p>地域行事や学校行事に大塚音頭を組み入れていただけるよう積極的に広報して、指導の機会を増やし、大塚音頭の普及を図ってほしい。また、スポーツレクリエーション部会と大塚音頭保存会の密なる連携を図りながら、事業を展開してほしい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画通りに事業ができませんでしたが、来年度は、地域行事や学校行事、特に幼稚園、保育園に積極的な広報を行い、指導の機会を増やしていただきたい。そして、住民が大塚音頭に親しみ、ふるさとの踊りとして子どもたちの心に定着することで、まちへの想いが育まれることを期待します。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(5) 健康に係る事業

事業名	健康増進事業	実施年数	5年目												
事業期間	開始：平成30年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます(人づくり・絆づくり) 地域住民が集うことで「話・和・輪」が生まれ住みよいまちづくりに繋がる。														
目的 (期待される効果)	ニュースポーツを体験することで新しい自分を発見してもらい、且つ、継続することで健康増進につなげる足掛かりとしたい。また、地域住民との交流を図ることを目的とする。														
事業内容・手段	(1) ニュースポーツ 実施時期 令和4年6月5日 会場 大塚公民館 大集会室 内容 ニュースポーツの体験 (2) ヨガ 実施時期 令和5年3月5日 会場 大塚公民館 大集会室 内容 ヨガの体験 講師 宇和田百合子氏														
事業費	37,716円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>33人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>28人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table> 事業内容に応じて男女別や年代別データ			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	33人		スタッフ	28人	17人	合計	61人	17人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	33人														
スタッフ	28人	17人													
合計	61人	17人													
住民の声(アンケートの結果等)	(1) ニュースポーツ ・もっと早くから経験したかった。 ・今後も運動して介護のお世話にならない様に頑張りたい。 ・楽しかった。次回も参加します。 ・なかなか思い通りにできなかったがとても楽しかった。 (2) ヨガ ・健康に関する話が聞けて良かった。 ・もっと体を動かしたい。 ・思っていたのと違うヨガだった。 ・初心者には取り組みやすい内容だった。														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	A		広報	事業の周知	B	A	
	住民の参加	B	C		事業の効果	課題解決への作用	A	A	障害のある方の参加者への対応について準備する。
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				住民の満足度	A	B
	各種団体との連携	B	B		事業継続の必要性			有・無	
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初参加の方が多く参加してくれてよかった。 ・障害者への対応について改善の必要がある。 							
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）></p> <p>ニュースポーツやヨガをとおして、気軽に楽しみながら健康増進や地域住民の交流が図れるので、参加予定人数が確保できるように事業の周知を徹底してほしい。</p> <p><意見への対応></p> <p>事前の広報範囲を広げる。公共施設のボードや店舗の掲示板への掲示をお願いする予定。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業計画）></p> <p>本年度は、「まちさんぽマップ」を増刷しましたので、「まちさんぽマップ」をもっとPRし、マップを活用した事業の展開も検討してほしい。</p> <p><意見への対応></p> <p>街中オリエンテーリングを企画するなどしてマップを活用したい。交通安全につながる啓発品を検討。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度は、ニュースポーツとヨガが実施されました。ニュースポーツでは、ポッチャやラダーゲッター、ミニボウリングなどが行われ、高齢者や障がい者も参加し、みんなで楽しめたと好評でした。来年度も、誰でもできるニュースポーツなどを通して地域住民の交流を交流を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(6) 教育に係る事業

事業名	江南小学校地区体育祭共催事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり・絆づくり) 地域住民が集まる体育祭を行うことで交流ができ、そのことが住み良いまちづくりにつながる。														
目的 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内住民の三世代交流と親睦を深め、地域の連携と活性化を図る。 ・子ども達が心身ともに健全に成長できる環境づくりを行う。 ・地域の子どもの「ふるさと(郷土愛)」づくりを行う。 														
事業内容・手段	<新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止>														
事業費	0円														
対象者	江南小学校校区内住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">年 度</th> <th style="width: 35%;">令和4年度</th> <th style="width: 35%;">令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ			合 計		
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ															
合 計															
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	-	-		広報	事業の周知	-	-	
	住民の参加	-	-			事業の効果	課題解決への作用	-	-
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	-	-				住民の満足度	-	-
	各種団体との連携	-	-		事業継続の必要性				有 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会からの意見	<地域協議会からの意見（令和3年2月・事業計画）> 校区内の三世代交流と親睦を深め、地域の連携と活性化を図り、子ども達の「ふるさとづくり」となるようお願いしたい。 <意見への対応> 競技内容を検討し、世代間交流ができる協議を追加する。				対応	未・済			
	<地域協議会からの意見（令和3年4月・事業実績報告）> 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止となったが、引き続き、自治会と江南小PTAが連携し、住民同士の親睦や三世交流が深められ、さらに、若い世代が参加できるように改善や工夫をして、なお一層のきずなづくりをお願いしたい。 <意見への対応> 競技内容を検討し、世代間交流ができる協議を追加する。				対応	未・済			
	<地域協議会からの意見（令和4年2月・事業計画）> 校区内住民の三世代交流と親睦を深め、地域の連携と活性化を図り、子ども達の「ふるさとづくり」となるようお願いしたい。 <意見への対応> 開催できる内容を検討する。				対応	未・済			
	<地域協議会からの意見（令和5年2月・事業計画）> 校区内住民の三世代交流と親睦を深め、地域の連携と活性化を図り、子ども達の「ふるさとづくり」となるようお願いしたい。 <意見への対応>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で行われた意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業名	大塚町体育祭共催事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます。 本事業を継続していくことで、地域住民同士の親睦をより一層深めていく。														
目的 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚4地区住民の親睦を深め、地域の連携と活性化を図り三世代交流の場を作る。 ・自治会未加入者の加入を促進する。 														
事業内容・手段	(1) 用具の購入をした。 <p style="text-align: center;"><新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベント中止></p>														
事業費	55,792円														
対象者	大塚町4地区の住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">年 度</th> <th style="width: 35%;">令和4年度</th> <th style="width: 35%;">令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ			合 計		
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ															
合 計															
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	-	-		広報	事業の周知	-	-	
	住民の参加	-	-			事業の効果	課題解決への作用	-	-
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	-	-				住民の満足度	-	-
	各種団体との連携	-	-		事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等>								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和2年4月・事業実績報告）> 連合自治会を大塚地区体育会が連携を密にし、住民同士の親睦や三世代交流が深められ、きずなづくりが図られた。引き続き、なお一層のきずなづくりをお願いしたい。</p> <p><意見への対応> コロナ感染症の影響で開催できなかったが、今後も連合自治会との連携を図り、なお一層の絆づくりに傾注していく。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和2年8月・事業計画）> 地域住民同士の親睦が深まり、絆づくりが図られるように、本年度も連合自治会と大塚地区体育会が連携を密にして、体育祭を盛り上げていただきたい。</p> <p><意見への対応> コロナ感染症の影響で開催できなかったが、今後も連合自治会との連携を図り、なお一層の絆づくりに傾注していく。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和3年8月・事業計画）> 地域住民同士の親睦が深まり、絆づくりが図られるように、本年度も連合自治会と大塚地区体育会が連携を密にして、体育祭を盛り上げていただきたい。</p> <p><意見への対応> 連合自治会と大塚地区体育会、さらに学校とも連携し、地域住民同士の親睦がより深まるよう絆づくりに貢献すると共に、より盛り上がった体育祭になるようにしたい。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和4年8月・事業計画）> 地域住民同士の親睦が深まり、絆づくりが図られるように、本年度も連合自治会と大塚地区体育会が連携を密にして、体育祭を盛り上げていただきたい。</p> <p><意見への対応> 開催できる内容について検討する。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止となりましたが、来年度も、自治会連合と大塚地区体育会と連携を密にし、住民同士の親睦や三世代交流を深め、なお一層のきずなづくりをお願いしたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

業名	昔の遊びとニュースポーツに挑戦事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 1. 塚人の育成と絆を結びます（人づくり・絆づくり） 地域の達人にチャレンジすることで住民通しの絆づくりを図り、日本の伝統文化にふれる。 2. 安全安心な大塚の街をつくります。（防災・福祉） 学校や公民館で開催することで、避難場所としての確認になる。														
目的（期待される効果）	地域の方と子ども達や保護者が交流し、日本の伝統文化や昔の遊びにふれる機会とする。														
事業内容・手段	(1) 大塚小学校オープンスクール 実施時期 令和4年11月6日 会場 大塚小学校 内容 ニュースポーツの体験・昔の遊び体験 (2) 江南小フェスタ2022 実施時期 令和4年11月13日 会場 江南小学校 内容 ニュースポーツの体験・昔の遊び体験														
事業費	4,926円														
対象者	地域住民・地域の子ども														
参加者数（内訳）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1,478人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>114人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,592人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	1,478人		スタッフ	114人		合計	1,592人	
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	1,478人														
スタッフ	114人														
合計	1,592人														
住民の声（アンケートの結果等）	<ul style="list-style-type: none"> ・達人のテクニックが凄かった。 ・昔遊びといっても今も遊べるので、楽しかった。 ・ニュースポーツは初めてだったけど、面白かった。 ・昔の遊びといっても、自分たちが若干体験したことのある遊びなので子供達に体験してもらうにあたり、接しやすかった。 ・子供達もすごく喜んで遊んでいた。 ・来年も実施したい。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A			広報	事業の周知	A		
	住民の参加	A				事業の効果	課題解決への作用	A	
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組と	A					住民の満足度	A	
	各種団体との連携	A			事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポレク部会としては初めての開催となったが、昔の遊びとニュースポーツと組み合わせることによって、参加者（子供達）に喜んで体験してもらってよかった。 ・不登校の児童の参加もあり、開催できてよかった。時間がたりなかったので、次回はプログラムを検討し、もっと楽しんでもらいたい。 							
地域協議会からの意見	<p><地域協議会からの意見（令和4年月・事業計画）></p> <p>昔の遊びを通じて異世代交流を深め、子ども達が日本の伝統文化に触れる機会を提供し、また、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環としてニュースポーツが体験できる貴重な事業なので、今後も是非継続していただきたい。</p> <p><意見への対応></p> <p>本年度、学校やPTAの協力も受けて実施できた。次年度は実施会場・プログラム内容（実施時間含む）等、改善していきたい。</p>				対応	未・済			
	<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）></p> <p>本年度は、大塚小・江南小ともにPTAと一体となった運営がなされ、昔の遊びやレクリエーション的なニュースポーツを通して、異世代交流が図られました。参加した多くの子ども達は、楽しそうに、真剣に取り組んでおり、江南小では、日本の伝統文化に触れる機会を提供し、また、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環としてニュースポーツが体験できる貴重な事業なので、今後も是非継続していただきたい。</p> <p><意見への対応></p>				対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(7) その他の事業

事業名	祭り大塚共催事業	実施年数	2年目												
事業期間	開始：令和3年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり・絆づくり)</p> <p>大塚地域の目指すまちの姿(将来像)のキャッチフレーズが「次世代も笑顔あふれる幸せな街大塚」とあるように、地域の青年部が中心となった「祭り実行委員会」が活動することにより、地域在住の若者・学生・子育て世代の人々も加わり、将来を担う人材育成(塚人の育成)と絆づくりにつながる。</p>														
目的(期待される効果)	<p>多世代が参加する「祭り大塚」を開催することにより、多くの地域の人々がふれあい、若者が伝統文化を継承し、住みやすく魅力ある大塚になることで人材「塚人の育成」を図る。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 中止のお知らせの葉書を出した。</p> <p>(2) 中止のお知らせのチラシを出した。まちづくりの掲示板にも掲示した。</p> <p>(3) 必要な備品・物品の購入をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テント ・LEDレンカライト ・ローリータンク ・ステージマット ・非接触体温計、防災シート、反射ベスト、合図灯 <p style="text-align: center;"><新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントは中止></p>														
事業費	675,761円														
対象者	地域住民														
参加者数(内訳)	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>140人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>140人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ	140人	13人	合計	140人	13人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ	140人	13人													
合計	140人	13人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントは中止となった。 ・会場の確保、出店者、出演者、司会者の依頼など準備が進んでいたため、中止にするまでに何度も協議したが、コロナ感染医療非常事態宣言の期間が実施日を含んでいたため、やむを得ず中止した。 ・委託費を削減するため、備品などの購入をした。今回はやむを得ず中止になったが今回購入した、資機材、物品を使い、次年度以降は、できるだけ出費を抑えて祭りを開催したい。 ・開催準備を早期に取り組むため、第1回役員会を5月17日に実施し、令和5年2月18日の役員会までに10回開催し、全体会は7月と9月に2回開催した。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	開催に意見をされる方、期待される方両方あった	広報	事業の周知	B	B	8自治会全地区に班回覧によって中止を知らせた。
	住民の参加		B				事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	活動交付金の適正使用が理解できた	事業の効果	住民の満足度			-
	各種団体との連携	B	B				事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員を中心に定期的に打ち合わせや会議などの情報交換会を行った。 ・次年度以降の予算削減のために、必要な備品や機材の購入をした。 							
地域協議会からの意見		<p><地域協議会からの意見（令和3年2月・事業計画）>多世代が参加する、地域一体となった祭りとなるよう、自治会連合を始めとする大塚地域の各団体と一層の連携を深めていただきたい。また、本年度からまちづくり推進委員会との共催事業として、活動交付金を活用するが、将来的には、活動交付金には依存しない、全くの自走事業となるよう、更なる自主財源の確保を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応> 自主財源確保の為、地域・企業への協賛リストを早めに作成し、全員で取り組むようようにした。</p>						対応	未・済
		<p><地域協議会からの意見（令和4年4月・事業実績報告）>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行事は中止となりましたが、来年度は、多世代が参加する、地域一体となった祭りとなるよう、自治会連合会を始めとする大塚地域各種団体との連携を深めていただきたい。また、本年度からまちづくり推進委員会との共催事業として、活動交付金を活用しますが、将来的には、活動交付金に依存しない、全くの自走事業となるよう、更なる自主財源の確保を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応> 本年度の活動交付金の活用として、例年委託料として計上するテント、LEDライト、ローリータンク、防災シート等を購入し、自走に向かって準備ができた。</p>						対応	未・済
		<p><地域協議会からの意見（令和4年6月・事業計画）>多世代が参加する、地域一体となった祭りとなるよう、自治会連合を始めとする大塚地域の各種団体と一層の連携を深めていただきたい。また、まちづくり推進委員会との共催事業として、活動交付金を活用するが、将来的には、活動交付金に依存しない、全くの自走事業となるよう、更なる自主財源の確保を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応> 8自治会全体の取り組みで江南地区からの実行委員の新規参加者があり、大塚地域全体の活動事業としての意識付けができた。</p>						対応	未・済
		<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告画）>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行事は中止となりましたが、来年度は、多世代が参加する、地域一体となった祭りとなるよう、自治会連合会を始めとする大塚地域の各種団体と一層の連携を深めていただきたい。また、まちづくり推進委員会との共催事業として、活動交付金を活用するが、将来的には、活動交付金に依存しない、全くの自走事業となるよう、更なる自主財源の確保を図っていただきたい。</p> <p><意見への対応></p>						対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	まちづくり充実事業	実施年数	9年目												
事業期間	開始：平成26年度	終了：	なし												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標</p> <p>1. 塚人の育成と絆を結びます。(人づくり・絆づくり) 広報紙の発行やまちづくり推進委員会の車を活用することにより、地域住民にまちづくり活動を身近に感じてもらい住民主体のまちづくりにつなげていく。</p> <p>2. 安全・安心な大塚の街をつくります。(防災・福祉) 行事にAEDを持参し緊急時に備える。</p>														
目的 (期待される効果)	大塚地域まちづくり推進委員会の活動の充実と住民主体のまちづくりを推進する。														
事業内容・手段	<p>(1) AEDのリース</p> <p>(2) まちづくりの車(リース車)を使用して地域を巡回する。</p> <p>(3) 広報紙の発行</p> <p>(4) まちづくり掲示板やまちづくり看板の活用</p> <p>(5) まちづくり充実用品の購入</p> <p>(6) 役員と部会員の旅費</p> <p>(7) まちづくり活動を自治会未加入者や若い世代にも周知できるようにフェイスブックを運営</p> <p>(8) まちづくり推進委員同士の連絡が迅速に確実にできるように令和3年度からマチコミメールを開始</p>														
事業費	1,856,158円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td>180人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>170人</td> <td>176人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>170人</td> <td>356人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者		180人	スタッフ	170人	176人	合計	170人	356人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者		180人													
スタッフ	170人	176人													
合計	170人	356人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックやマチコミメールを活用し情報提供をしているが、ラインなどの活用も検討しながら、迅速且つ正確な情報提供を考えている。 ・各部会の活動の様子を、他の部会員や地域の方にも理解して頂けるようPR動画を作成した。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B		広報	事業の周知	A	A	
	住民の参加	A	A			事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				住民の満足度	A	A
	各種団体との連携	A	B	自治会、大塚公民館と連携した。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等> 全体会を3年間開催できていないこともあり、まちづくりの周知ができなかったが、PR動画を作成し、次年度に向けた準備をしている。</p>							
地域協議会からの意見		<p><地域協議会からの意見（令和5年2月・事業計画）> フェイスブックによる部会活動やイベント等の情報発信、広報が開始されているので、まちづくり更なる充実・飛躍を期待したい。ただ、著作権やプライバシーの侵害等のトラブルが発生しないように、十分留意していただきたい。 <意見への対応></p>						対応	未・済
		<p><地域協議会からの意見（令和5年4月・事業実績報告）> まちづくり推進委員会の活動や地域の情報を住民にいかに周知するかは、重要なテーマです。令和3年2月から広報紙の配布のほか、フェイスブックによる情報発信も始められましたので、来年度も更なるフェイスブックの充実、飛躍をお願いしたい。 <意見への対応></p>						対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	見守り活動事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	81,347	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	81,347	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費	1,000	旅費 1,000
4	需用費	80,347	飲料水 8,808 用紙 11,880 インク・マスター 20,680 ポール固定用結束バンド 3,084 道路線引き用スプレー 22,680 たすきクリーニング代 11,055 単三電池 2,160
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	81,347	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	防災訓練事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	254,826	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	254,826	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	254,826	脚立(9台) 69,300 工業扇風機、カバー(9) 47,046 ジョイントマット 68,408 保存食、保存水 62,087 ブルーシート 4,175 文具 3,810
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	254,826	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	防災力の向上事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	32,519	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	32,519	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	32,519	飲料水 1,776 ダッシュバック脱水剤 6,600 脱水容器他 4,806 インク、文具 19,337
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	32,519	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	災害対応積立基金備蓄品購入事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	災害対応積立基金取崩額	1,094,727	
2	積立金利息	7	
3	負担金		
4	合計(A)	1,094,734	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	592,452	ジョイントマット(312) 296,010 ダッシュバック 104,885 コードリール(7) 53,200 消火器(12) 91,800 文具、消耗品 46,557
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	502,282	防水コードリール 29,282 工業扇風機(5) 57,200 テント10張 148,500 間仕切り(10) 267,300
11	積立金		
12	合計(B)	1,094,734	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区
大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	防災充実事業
-----	--------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	504,400	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	504,400	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	64,400	発電機カバー 18,150 ガソリン缶、携行缶 44,330 エンジンオイル、容器 1,920
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	440,000	インバーター発電機 (5台) 440,000
11	積立金		
12	合計(B)	504,400	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	生活支援事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	3,720	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	3,720	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	3,720	インク 1,848 電池・手袋 1,872
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	3,720	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	「やさしいまち大塚」プロジェクト事業
-----	--------------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	15,749	
2	繰越金	50,000	
3	負担金		
4	合計(A)	65,749	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	16,249	用紙 9,240 インク 7,009
5	役務費		
6	委託料	49,500	認知症見守りステッカー(100枚)
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	65,749	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	男女共同参画社会づくり事業
-----	---------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	13,622	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	13,622	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	11,112	用紙 9,240 飲料水 1,872
5	役務費	1,510	保険 1,400 手数料 110
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	1,000	公民館使用料 1,000
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	13,622	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	ふれあいサロン事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	29,612	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	29,612	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	28,612	もち米 10,000 用具バッグ 1,980 インク 16,632
5	役務費	1,000	保険料 1,000
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	29,612	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	健康づくり事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	23,407	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	23,407	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	19,057	用紙 9,240 インク 7,009 飲料 2,808
5	役務費	2,350	保険 2,240 手数料 110
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	2,000	公民館使用料 1,000 エアコン代 1,000
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	23,407	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	水流川クリーンアップ事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	483,278	
2	繰越金		
3	負担金	38,000	九州「川」のワークショップin筑後実行委員会から旅費として29,000円 参加費(@200×45人)9,000円
4	合計(A)	521,278	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費	64,500	日当(5人) 22,000 旅費(4人) 4,000 宿泊費(5人) 38,500
4	需用費	185,002	飲料、弁当 44,740 草刈機替刃、燃料 20,827 つかみ取り用アユ 80,000 用紙 11,880 文具、材料 27,555
5	役務費	5,416	保険 5,086 振込手数料 330
6	委託料	99,400	草刈り委託費 40,000 スタッフTシャツ20枚 37,400 生き物マップ 22,000
7	使用料及び賃借料	166,960	小型バス 166,960
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	521,278	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	ダンボールコンポスト事業
-----	--------------

(1) 収入の部 (単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	70,692	
2	繰越金		
3	負担金	12,500	参加者負担金 (@500 × 25人)
4	合計(A)	83,192	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	10,000	講師謝金 2回分 10,000
3	旅費		
4	需用費	73,192	用紙 5,940 飲料 1,896 野菜の種 4,200 水質浄化液材料 3,226 コンポスト材料費 57,930
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	83,192	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	ペットマナー向上事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	54,628	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	54,628	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	12,000	講師謝金 12,000
3	旅費	4,400	講師費用弁償 4,400
4	需用費	34,648	用紙 22,222 インク 6,468 飲料 1,788 ビニール袋 590 草刈機替刃 3,580
5	役務費	3,580	保険 3,360 手数料 220
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	54,628	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	大塚音頭普及促進事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	2,329	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	2,329	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	1,069	飲料 1,069
5	役務費	1,260	切手 1,260
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	2,329	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	健康増進事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	7,716	
2	繰越金	30,000	
3	負担金		
4	合計(A)	37,716	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	12,000	講師謝金 12,000
3	旅費		
4	需用費	23,236	用紙 11,880 飲料 7,422 消毒アルコール ポリ袋・テープ 3,934
5	役務費	2,480	保険代 2,260 手数料 220
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	37,716	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	大塚町体育祭共催事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	55,792	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計(A)	55,792	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	55,792	メッシュベスト・笛 55,792
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	55,792	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	昔の遊びとニュースポーツに挑戦事業
-----	-------------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	4,926	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計(A)	4,926	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	4,926	折り紙・毛糸・めんこ 3,534 飲料 1,392
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	4,926	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	祭り大塚共催事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	675,761	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計(A)	675,761	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	241,311	防災シート、合図灯 100,100 ステージマット 98,670 非接触温度計 32,800 文具 9,741
5	役務費	12,600	葉書
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	421,850	イージーアップテント(10) 261,250 LEDレンカライト(10) 132,000 ローリータンク(2) 28,600
11	積立金		
12	合計(B)	675,761	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

事業名	まちづくり充実事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	511,392	
2	繰越金	1,344,741	
3	その他	25	銀行利息
4	合計(A)	1,856,158	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	手当	371,792	事務局職員時間外手当
2	報償費		
3	旅費	171,000	部会員、役員活動費
4	需用費	377,712	ユニット交換、アダプター 21,648 テーブル、コードリール等 45,868 電話機、ルーター 38,038 文具、インク 248,591 飲料水 2,040 ガソリン 21,527
5	役務費	175,994	郵便代 30,750 保険代 11,840 電話代、インターネット 126,254 手数料、設置料 7,150
6	委託料	126,500	広報紙 126,500
7	使用料及び賃借料	413,160	リース車代 356,400 A E D使用料 56,760
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	220,000	ラミネーター 15,400 プリンタ 45,100 テント5張 159,500
11	積立金		
12	合計(B)	1,856,158	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

積立金管理状況報告書

大塚地域自治区

大塚地域まちづくり推進委員会

積立金名称	災害対応積立基金
-------	----------

積立金の収支

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	前年度までの積立額	1,094,742	
2	積立額	7	利息
3	取崩額	1,094,734	
4	合計	15	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和5年4月28日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大塚町鎌ヶ迫2296番地3
名 称	大塚地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名	会 長 松田 博
電 話 番 号	53 - 4047

令和5年1月13日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、決算において1,425,043円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越します
ので届け出ます。

繰越金内訳

基礎交付金	1,425,043円
特例交付金	0円

添 付 書 類

令和4年度収支決算書

大塚地域自治区地域協議会
会長 井福 経晏 ㊟

令和4年度の大塚地域自治区のまちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていまして、承認いたします。

なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

記

1 総括

まちづくり推進委員会は、「まちづくり実践組織」として、各種団体と連携したまちづくり活動の中心的役割を担っており、「次世代も 笑顔あふれる 幸せな街 大塚」の実現のために、その活動は地域にとって非常に重要です。

大塚地域においては、活動者の固定化・高齢化、住民のまちづくりへの関心の低迷、事業参加者の減少等の課題を抱えながらも、日々活動に取り組み、各部会では「大塚地域まちづくりビジョン」の基本目標や重点項目に係る事業が実施されています。

今後、さらに事業効果をあげるために、各部会がビジョン実現のために活動目的を明確にしたうえで、課題解決の達成度の分析、事業効果の検証、必要性の精査を行い、事業の整理統合を行い、真に必要な事業を展開していただきたい。

2 事業の推進体制

防災部会、福祉部会、環境部会、スポーツ・レクリエーション部会の4部会が地域の各種団体や学校と連携して事業を実施しています。活動者が固定化するなかで、効率的に事業を実施するためにも、また活動者の負担を軽減するためにも、各分野で専門的知識等を持つNPOなどの団体と連携を図り、事業の実施を検討していただきたい。

また、次代を担う人材の確保は大塚地域においても喫緊の課題である。「まちづくりサポーター」等による新たな人材の確保、各部会でのリーダー育成のための研修に、特に配慮した取り組みをお願いします。

3 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

事業名	意見
防災訓練事業 (14年目)	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため防災訓練は開催できず、防災倉庫の点検や防災研修を実施されましたが、来年度は、防災部会が更に地域の防災を担う組織として、自治会とともに訓練内容の検討と参加者数の低迷、子どもたちや子育て世代の参加が少ない等の課題解決を図っていただきたい。

事業名	意見
防災力の向上事業 (11年目)	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画通りの研修はできなかったが、地域防災の向上には、リーダーの存在は重要であり、専門知識を有し、やる気のある防災リーダーの育成は、早急に取り組むべき課題です。来年度は、自主防災隊と連携を密にし、リーダーの育成に取り組んでいただきたい。
防災充実事業 (11年目)	災害時に住民の自助・共助が円滑に行えるように、来年度も、地域で必要な防災機器・用品を把握し、整備していただきたい。
見守り活動事業 (14年目)	警察や地域団体との情報交換会や小学校が開催する交通安全教室への参加を通し、学校や警察機関等と情報を共有しながら、来年度も、見守り活動組織、青色防犯パトロールを支援し、地域に根ざした地域の安全確保に努めていただきたい。
「やさしいまち大塚」プロジェクト事業 (2年目)	来年度も引き続き、事業の目的、特にステッカー作成の趣旨を丁寧に住民に説明し、また、チラシ等により住民の理解が得られるよう事業の周知徹底を図っていただきたい。
生活支援事業 (6年目)	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業中止となりました。ただ、当初5箇所での居場所づくりを計画されていましたが、マンパワー不足等の理由で、実施しても中区1箇所のみという状況でしたので、来年度は、無理のない事業計画で居場所づくりを実施し、引きこもりがちな住民の方々の居場所を作っていただきたい。
男女共同参画社会づくり事業 (14年目)	本年度も昨年度に続き、市の地域まちづくりアドバイザー派遣事業を活用して、防災士の黒木淳子氏を講師に招き、防災講座を開催されました。女性の視点で避難所運営や防災について話していただき、女性ならではの具体的な話で、今回も沢山の気づきがありました。来年度も、引き続き、男女共同参画の意識高揚を図ってほしい。
ふれあいサロン事業 (13年目)	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画通りには実施できませんでしたが、来年度も引き続き、子どもから高齢者まで誰でも立ち寄れる居場所を作っていただき、3世代交流や地域住民同士の親睦を深め、地域の方々の豊富な経験や知識・技能を活用し、高齢者の方々の生きがい作りも図っていただきたい。
健康づくり事業 (6年目)	本年度は、地域包括支援センターの田中氏を講師に迎え、「介護保険サービスに関する基礎講座」やストレッチ体操、ミニゲームが行われました。包括支援センターの役割や施設の情報、どのような介護サービスが利用できるかなど、大変役に立つ話が聞けたと大好評でした。来年度も引き続き、包括支援センターと連携を密にし、支援センターを地域住民にもっと身近な存在にしていきたいと思います。

事業名	意見
<p>水流川 クリーンアップ事業 (12年目)</p>	<p>来年度も引き続き、住民の川への思いや環境に対する意識の向上を図っていただきたい。特に「江南小学校の環境学習サポート」は、先生も熱心に取り組んでおられ、学校と地域が連携した素晴らしい内容になっていますので、モデル事業として大塚地域外にも積極的に広報し、多くの人たちに知っていただきたい。</p>
<p>ダンボール コンポスト事業 (11年目)</p>	<p>ダンボールコンポストは地域にかなり普及し、確実に、生ごみの減量化が図られていますので、来年度も引き続き、環境についての意識が更に向上するよう推進していただきたい。</p>
<p>ペットマナー 向上事業 (8年目)</p>	<p>来年度も引き続き、ペット飼育者のマナーの向上と地域住民同士の絆づくりを図っていただきたい。</p>
<p>大塚音頭 普及促進事業 (10年目)</p>	<p>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画通りに事業が出来ませんでした。来年度は、地域行事や学校行事、特に幼稚園、保育園に積極的な広報を行い、指導の機会を増やしていただきたい。そして、住民が大塚音頭に親しみ、ふるさとの踊りとして子どもたちの心に定着することで、まちへの想いが育くまれることを期待します。</p>
<p>健康増進事業 (5年目)</p>	<p>本年度は、ニュースポーツとヨガが実施されました。ニュースポーツでは、ボッチャやラダーゲッター、ミニボウリングなどが行われ、高齢者や障がい者も参加し、みんなで楽しめたと好評でした。来年度も、誰でも出来るニュースポーツなどを通して地域住民の交流を図っていただきたい。</p>
<p>大塚町体育祭 共催事業 (12年目)</p>	<p>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止となりましたが、来年度も、自治会連合会と大塚地区体育会と連携を密にし、住民同士の親睦や三世代交流を深め、なお一層のきずなづくりをお願いしたい。</p>
<p>昔の遊びとニュー スポーツに挑戦事業 (12年目)</p>	<p>本年度は、大塚小・江南小ともにPTAと一体となった運営がなされ、昔の遊びやレクリエーション的なニュースポーツを通して、異世代交流が図られました。参加した多くの子ども達は、楽しそうに、真剣に取り組んでおり、江南小では、不登校の子どもも参加し、事業の目的は、十分達成されました。来年度も、PTAとの連携を密にし、一層の事業の充実を図っていただきたい。</p>
<p>祭り大塚共催事業 (2年目)</p>	<p>本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行事は中止となりましたが、来年度は、多世代が参加する、地域一体となった祭りとなるよう、自治会連合会を始めとする大塚地域の各種団体と一層の連携を深めていただきたい。また、将来的には、活動交付金には依存しない、全くの自走事業となるよう、更なる自主財源の確保を図っていただきたい。</p>

事業名	意見
まちづくり 充実事業 (9年目)	まちづくり推進委員会の活動や地域の情報を住民にいかに関知するかは、重要なテーマです。令和3年2月から広報紙の配付のほか、フェイスブックによる情報発信や広報も始められましたので、来年度も更なるフェイスブックの充実、飛躍をお願いしたい。

4 その他